

在宅看護実習における学生の学び

－診療所・障害者地域活動支援センターでの健康教室実施報告書の分析－

丸山 純子*・栗本 一美

新見公立大学看護学部

(2014年11月19日受理)

本研究は、A大学の在宅看護実習に取り入れている診療所・障害者地域活動支援センターでの健康教室において、実施後に学生が記述した「健康教室実施報告書」内の学生の学びについて分析し、今後の効果的な実習指導の検討資料とすることを目的とした。学生の学びの記述内容を分析した結果、207のコード、6カテゴリー、22サブカテゴリーに集約された。6カテゴリーは、【参加者の健康観や生活観の把握】【健康教室の目的】【健康教室の企画】【健康教室の運営】【健康教室の評価・修正】【学生の自覚と達成感】であった。学生は、対象を理解するにあたり、対象の地域性や生活背景などを理解する必要性を学び、健康教室で使用する教材の工夫や、参加型の健康教室を安全に企画・運営することで、行動変容を促す重要性を認識していた。実施後には、集団指導でありながらも、個人を尊重した対応と評価の必要性を再確認し、指導する自覚と責任感を持つと共に、やりがいを感じていることが明らかとなった。

(キーワード) 在宅看護実習, 健康教室, 学生の学び

はじめに

平成25年度から適用された「二一世紀における第二次国民健康づくり運動(健康日本21(第二次))」において、すべての国民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会とするためには、従来の疾病予防の中心であった「二次予防」(健康診査等による早期発見・早期治療)や「三次予防」(疾病が発症した後、必要な治療を受け、機能の維持・回復を図ること)に留まることなく、「一次予防」(生活習慣を改善して健康を増進し、生活習慣病等を予防すること)に重点を置いた対策を強力に推進して、健康で自立して暮らすことができる期間の延伸等を図っていくことが極めて重要であると提示されている¹⁾。そのために医療職者に求められる事として、地域の健康課題を解決するための各機関、職種間で連携を図ることや、健康増進に関する施策に携わる専門職等の人材育成と、指導者としての資質を向上させることが推進されている。

また、大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会においては²⁾、大学教育にて、個人-家族-集団-地域のあらゆる年代の人々に対する看護実践やヘルスプロモーション、予防を促進する看護実践が必要と報告されている。地域看護学実習に健康教室を取り入れた栗本らによると、学生が対象者の生活圏域で行う健康教室は、対象者が住んでいる地域性を肌で感じることができ、実践能力を高めるための有効な機会であったと述べられて

いる³⁾。

そこで、本研究では「在宅看護実習」に取り入れている診療所と障害者地域活動支援センターでの健康教室実施後の学生の学びについて分析し、教育実践力構築の起点から今後の課題を明らかにすることを目的とした。

Ⅰ. 研究目的

「在宅看護実習」での診療所・障害者地域活動支援センターでの健康教室実施後に学生が記述した「健康教室実施報告書」内の学生の学びについて分析し、今後の在宅看護実習における健康教室を実施するための効果的な教育指導の検討資料とする。

Ⅱ. 研究方法

1. 調査対象：平成25年度に在宅看護実習を終了したA大学看護学部看護学科に在籍する4年生64名のうち、本研究に同意した59名の健康教室実施報告書59枚。
2. データ収集期間：平成24年10月～平成25年7月
3. 調査方法：実習終了後に学生が提出した在宅看護実習記録の「健康教室実施報告書」に記載してある学びの内容をデータとして取り扱った。データの分析方法は、内容分析の手法を用いて分析した。記載されている内容を、一文一意味として切り取り、内容をコード化し抽

*連絡先：丸山純子 新見公立大学看護学部 718-8585 新見市西方1263-2

出し、一文章を一記録単位とした。次に個々の記録単位を類似性に沿ってカテゴリー化し、検討した。導き出したカテゴリー、サブカテゴリーについては、スーパーバイズを受け、信頼性と妥当性の確保に努めた。

4. 倫理的配慮：学生に研究の目的、方法や匿名性の保持について、研究への協力は自由意思であり、研究に同意後も撤回可能であること、また研究の協力の有無は成績と無関係であることを口頭および文書にて説明した。説明後、記入した同意書を回収することで協力を得た。

III. 在宅看護実習における健康教室の概要

A 大学看護学部では、健康教室に関して、看護2年次に在宅看護援助論として、在宅看護の特殊性や日常生活に必要な指導・援助について学んでいる。また、看護3年次に健康教育論として健康教育の展開方法を学んでいる。

在宅看護実習は、地域に存在する保健・医療・福祉施設での実習を通して在宅看護の理解と具体的援助方法について看護3・4年次で学んでいる。

1. 診療所実習における健康教室の目標
 - 1) 通院患者を通して、地域住民の健康観、健康行動を理解できる。
 - 2) 地域の特性を踏まえた健康教室が実施できる。
 - 3) 対象者への指導の必要性和指導方法が理解でき、指導における看護師の役割が理解できる。
2. 実習内容

在宅看護実習では、2週間を1クールとし、診療所・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所・障害者地域活動支援センターの4か所で、1～2日ずつ実習を行う。そのうち、診療所と障害者地域活動支援センターでは、学生2人がペアとなり、診療所の待合室やロビーにて30分程度の健康教室を開催している。健康教室のテーマは自由とし、学生が作成した健康教室計画書に基づき実施している。

IV. 結果

1. 健康教室実施後の学生の学びの記述内容

在宅看護実習に取り入れている診療所と地域活動支援センターでの健康教室実施後の学生の学びの記述内容を類似性に沿って分類した結果、207コードが抽出され、【参加者の健康観や生活観の把握】【健康教室の目的】【健康教室の企画】【健康教室の運営】【健康教室の評価・修正】【学生の自覚と達成感】の6カテゴリーと22のサブカテゴリーが抽出された(表1)。

【健康教室の運営】に関するコードが84、サブカテゴリー

ーが8と最も多く、【健康教室の評価・修正】に関するコードは6、サブカテゴリーは1と最も少なかった。実施した健康教室に対する運営や評価の記述は見られたが、学生同士のチームワーク等の運営や評価に関する記述は見られなかった。

以下の文中においてカテゴリーは【 】, サブカテゴリーは〔 〕, コードは< >として表記する。

2. 健康教室のテーマと内容

実施された健康教室のテーマと内容は表2に示す。

3. 実習目標と学びのカテゴリーの関連は、図1に示す。

V. 考察

1. 参加者の健康観や生活観の把握

健康教室実施後の学生の学びを分析した結果、【参加者の健康観や生活観の把握】は、健康教室の参加者が持つ健康に対する意識や価値観、生活背景などを認識することを意味しており、〔参加者の健康観や生活観〕〔健康意識〕で構成されていた。また、<一方的な情報提供ではなく、参加者の健康観や生活観を知る><参加者の背景を知ること>よりその一人一人に合った健康教室を進めることができ、自宅での実践に繋がった>などの記述があった。このことから、学生は、健康教室を開催する際に、開催場所の地域性や対象を理解する必要性を認識していた。野原ら⁴⁾の報告によると、学生は、健康教室の課題抽出の困難さを体験することで、日常の住民の生活実態を捉える事や、住民の意見を聞く意義を改めて理解することができた、と述べている。本研究でも、<対象者の方々は健康意識が高い方が多い><医療過疎の地域である分、逆に自分を守ろうという意識が強い>など、対象者の〔健康意識〕を把握して、健康教室のテーマや指導方法を決定していく重要性を学んでおり、目標1) 2)に対応していると考えられる。

2. 健康教室の目的

【健康教室の目的】とは、〔主体的に取り組める内容〕〔行動変容への動機付け〕〔知識の提供〕で構成されていた。【健康教室の目的】として、<主体的に取り組むことのできる内容で生活に活かす><誰もが分かりやすく、家で行うことができるような内容のものを考えることが必要>など〔主体的に取り組める内容〕を提示することで、〔行動変容への動機付け〕が有効になり、〔知識の提供〕ができる、と学生は学んでいた。<学んだ知識を家庭に持って帰って広めてもらうことで、地域全体の健康に対する意識が高まる>など、その場だけの健康教室のみならず、地域全体を対象としてとらえていた学生もおり、学生が実施する健康教室の意義は深いと思われる。この学びは、目標1) 2)に対応している。

3. 健康教室の企画

【健康教室の企画】とは、〔対象に合ったテーマ選択〕〔しっかりとした計画立案〕〔対象に合わせた指導内容〕〔教材の工夫〕で構成されていた。健康教室のテーマは、高血圧や糖尿病予防などの生活習慣病に関するものから、肩こり、腰痛予防、ロコモティブシンドロームに対応したストレッチ、認知症予防、歯科衛生に至るまで多岐にわたり、テーマ名を工夫して対象者の興味を引きつけていた。学生は、自分たちが健康教室を実施する時期や対象に応じて、＜自身が実践していけるかなど考慮した上で計画作成＞が重要で、＜十分な準備が必要＞の記述から、対象者に合わせて理解しやすい内容を企画する重要性を学んでいた。また、健康教室で、パンフレットやポスターだけでなく、一日摂取量に小分けした塩や、熱中症対策ドリンク作成のためのペットボトルを使用するなど、〔教材の工夫〕を行っていた。このことは、視覚的、感覚的に対象者の興味を引き付け、意識付けに有効だったと思われる。この学びは目標2)3)に対応している。

4. 健康教室の運営

【健康教室の運営】とは、〔場の雰囲気作り〕〔分かりやすい説明〕〔進行の工夫〕〔参加型の工夫〕〔問いかけ反応をみる工夫〕〔対象者の反応に合わせた指導〕〔集団指導の相互作用〕〔安全の確保〕で構成されていた。

【健康教室を運営】するにあたり、＜コミュニケーションをしっかりと取り、リラックスして実施することができた＞と健康教室開催前の〔場の雰囲気作り〕を大切にすることで、導入効果を上げ、医学用語を＜理解しやすく活用しやすいように簡単な言い方に言い換える＞など〔分かりやすい説明〕を行う必要性を学んでいた。そして、＜問いかけてみたり表情をみたりすることで判断しながら進めていく＞〔進行の工夫〕を行いながら、＜クイズや質問による参加者の意欲向上＞といった〔参加型の工夫〕や、＜一方的にならないように語りかけながら行う事が大切＞などの〔問いかけ反応をみる工夫〕の重要性を実感していた。これらの工夫から、＜対象者の反応や理解度を気にかけてながら行う大切さ＞といった〔対象の反応に合わせた指導〕について学び、＜健康教室は対象者同士の関わりから相互作用も得られる場である＞などの〔集団指導の相互作用〕に気が付くこともできていた。また、診療所では対象は小児から高齢者と幅広く、車椅子の方や、難聴の方、付き添いの必要な方など1人1人の対象者の反応を見ることで、＜痛みのある方への配慮ができた＞や、＜邪魔にならない環境で安全に教室を行う事が一番＞など〔安全の確保〕に努める必要性が抽出されており、運営上の留意点について学ぶことができていたと考える。

この学びは目標2)3)に対応している。

5. 健康教室の評価・修正

【健康教室の評価・修正】とは、〔評価・修正の重要性〕であった。学生は自分たちが実施した健康教室を＜実施

して終わるのではなく、しっかりとした評価・修正が必要＞、＜評価・改善をし、よりよいものを作っていく必要がある＞と健康教室の〔評価・修正の重要性〕について学んでいた。

学生は、2週間の在宅看護実習において、2回～3回の健康教室を実施し、終了後には教員と振り返りの場を設けている。そこで、実際に自分たちが行った健康教室に対し、健康教室の目的や運営の工夫が成されていたかを自分の言葉として発し、振り返っており、目標3)に対応していると考ええる。

6. 学生の自覚と達成感

【学生の自覚と達成感】とは、〔学生の自覚と責任感〕〔知識不足〕〔やりがい〕〔指導の難しさ〕で構成されていた。学生は、＜指導する自覚と責任感を持って臨む＞や、＜真摯に答えられるような健康教室作りが必要＞と学生が行う健康教室に対し、〔学生の自覚と責任感〕を感じていた。そして、＜知識不足があり、もっと勉強してより効果的な教室ができるようにしていけたら良い＞といった〔知識不足〕や、＜伝えることが難しい＞、＜同様に分かってもらうことの難しさ＞といった〔指導の難しさ〕を実感していた。しかし、＜何度も検討することが良い反応につながり、やりがいがある＞、＜真剣に聞いてくれている方がいるということのありがたさを実感した＞と、〔やりがい〕として達成感も感じていることが明らかとなり、目標3)に対応していると考ええる。

学生は、健康教室実施に関して、対象者の身体的特徴や健康意識に着目し、生活背景を理解する必要性を学んでいた。そして、対象に合わせたテーマ選択の重要性を認識し、分かりやすい指導方法や教材の工夫を行うことで、参加者の関心を引き付けた健康教室に留意していた。また、行動変容を効果的に促すためには、参加型の健康教室を安全に企画・運営する必要性を学んでいた。実施後には、集団指導でありながらも、個を尊重した対応の必要性を再確認し、健康教室の内容を修正する必要性を学んでいた。学生は、健康教室において、指導する〔学生の自覚と責任感〕を持つと共に、やりがいを感じていることが示された。

健康教室パンフレット作成を取り入れたヘルスプロモーション教育の意義として逸見⁵⁾は、学生自身、自分の周囲を観察し、健康課題を見つけ、資料を集め、考え、紙面の中に対象者を浮かべながらパンフレットに表現するという発見学習・体験学習・主体的学習は、看護への動機付けとなる有効な教育方法であったと報告している。

このように、地域において学生が健康教室を実践しながら学びを深めていくことは、学生にとって効果的な学習方法であるとともに、参加者が健康教室で学んだ知識やパンフレットを家庭に持ち帰ることで、地域への効果も期待できるのではないかと考える。また、このように

地域の方々との出会いの機会をもつことで、看護職として在宅療養を支えるための広い視野や地域の力、柔軟な対応力の必要性についても学ぶことができ、専門職としての自覚も見出せたのではないかと考える。

VI. 研究の今後の課題

今後の課題として、学生が対象者の健康観や生活背景を理解した上で計画を立案することが重要と言える。また、診療所の待合やロビーなど流動的な場所での健康教室の運営に際し、場の雰囲気作りを大切にしながら、対象者の反応に合わせた指導を安全に実施するための支援の必要性がある。さらに、学生同士のチームワーク等運営に関する評価が表出されにくかったことなどから、より効果的なグループダイナミクスの活用と、実施した健康教室に関する学生個人の自己評価方法の改善が必要である。

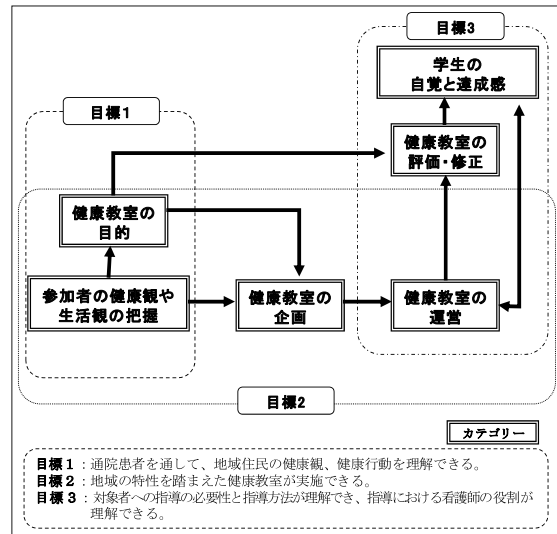


図1 健康教室の目標と学びの 카테고리 関連図

表1 診療所と障害者地域活動支援センターにおける健康教室実施後の学生の学び

カテゴリー	サブカテゴリー () コード数	コード例 (n=207)
参加者の健康観や生活観の把握	参加者の健康観や生活観 (23)	一方的な情報提供ではなく、参加者の健康観や生活観を知る 参加者の背景を知ること、よりその一人一人に合った健康教室をすすめることができ、自宅での実践に繋がった
	健康意識 (7)	対象者の方々は健康意識が高い方が多い 住民の健康意識が高く、医療過疎の地域である分、逆に自分を守ろうという意識が強い
健康教室の目的	主体的に取り組める内容 (7)	主体的に取り組むことのできる内容で生活に活かす 誰かが分りやすく、家で行うことができるような内容のものを考えることが必要
	行動変容への動機付け (7)	自分の健康の実態を理解することで行動変容への意欲につながる 行動変容につなげるためには信頼関係や継続性が重要
	知識の提供 (10)	地域の方に正しい知識を提供することができる 学んだ知識を家庭に持って帰って広めてもらうことで地域全体の健康に対する意識が高まる
健康教室の企画	対象に合ったテーマ選択 (11)	対象者にあったテーマ選択が大切 その地域のことを知り、特性に合ったテーマで計画を立案するというのが大切
	しっかりとした計画立案 (9)	十分な準備が必要 自身が実践していけるかなど考慮した上で計画作成
	対象に合わせた指導内容 (6)	その方の背景にあわせた指導が重要 対象者に合わせてより理解が得られやすい内容に近づけることが健康教室の効果につながる
健康教室の運営	教材の工夫 (11)	パンフレットは根拠がしっかりしているものや信頼性の高いものに上げる 文字の大きさや難読の方への配慮
	場の雰囲気作り (4)	場の雰囲気づくりが大切 コミュニケーションをしっかりと取り、お互いリラックスして実施することができた
	分かりやすい説明 (9)	分かりやすい言葉と単語で説明する必要 理解しやすく活用しやすいように簡単な言い方に言い換える
	進行の工夫 (14)	問いかけてみたり表情をみたりすることで判断しながら進めていく 臨機応変に計画を変更し、指導して大切さ
	参加型の工夫 (13)	クイズや質問による参加者の意欲向上 私たちが参加者で健康教室を作り上げていく
	問いかけ反応をみる工夫 (16)	理解していただけたかの確認(質問)の工夫も必要 一方的にならないように語りかけながら行うことが大切
	対象者の反応に合わせた指導 (9)	対象者の反応や理解度を気にかけてながら行う大切さ 1人1人確認しながら行い、効果を実感してもらいながら実施できた
	集団指導の相互作用 (11)	健康教室は対象者同士の関わりから相互作用も得られる場である 集団指導というのは同じような年代や悩み、不安を持つ方が共に学ぶことで情報を共有することができるので、日常生活の改善につながりやすい
	安全の確保 (8)	痛みのある方への配慮ができた 邪魔にならない環境で安全に教室を行うのが一番
	健康教室の評価・修正	評価・修正の重要性 (6)
学生の自覚と責任感 (8)		指導する自覚と責任感を持って臨む 真摯に答えられるような健康教室作りが必要
学生の自覚と達成感	知識不足 (7)	知識不足があり、もっと勉強してより効果的な教室ができるようにしていけたら良い 説明不足・知識不足の箇所があり、改善点が見つかった
	やりがい (6)	何度も検討することが良い反応につながり、やりがいがある 真剣に聞いてくれている方がいるということのありがたさを実感した
	指導の難しさ (5)	伝えることが難しい 同様に分かってもらうことの難しさ

表2 健康教室 内容・テーマ (2012.9~2013.7)

内容	テーマ	教材・実演内容等
高血圧予防	ストップ! 高血圧!!	パンフレット
	高血圧とうまくつきあおう!!	パンフレット・ポスター
	見直しましょう! 高血圧と食生活	パンフレット・塩(一日摂取量)
脳卒中予防	普段の食生活を振り返って、塩分摂取量を見直そう!	パンフレット・塩(一日摂取量)
	冬来てもあったかバイバイ NO! 卒中!	パンフレット
	食生活から始める脳卒中予防	パンフレット
糖尿病予防	糖尿病を予防しよう!!	パンフレット
	ストレッチDE 糖尿病予防	リーフレット・ストレッチ
メタボリックシンドローム	めざせ! 間食名人	パンフレット
熱中症予防	メタボ。原因は日常生活の中にあり!	パンフレット
	熱中症にご用心!!	パンフレット
	脱水に注意しよう	パンフレット・熱中症対策ドリンクレシピ
	熱中症を予防して趣味に熱中しよう	パンフレット・ポスター・ペットボトル
睡眠	快適な夏を過ごすために ~正しい暑さ対策をしよう! ~	パンフレット・野菜(一日摂取量)・ペットボトル
	朝の目覚めスッキリ体操	パンフレット・体操
食中毒予防	良い眠りで寝苦しい夏を乗り切ろう!	パンフレット・ストレッチ
	夏は0-157に要注意!	パンフレット
	感染性胃腸炎の予防を学んで美味しく・楽しく・食事をしよう!	パンフレット・ポスター
インフルエンザ予防	大丈夫? その手、その食、その症状 ~食中毒予防について~	パンフレット・手指消毒実演
	インフルエンザにそなえよう!	パンフレット・マスク
腰痛予防	腰痛を予防して、元気に過ごそう!!	リーフレット・腰痛体操
	腰痛を予防しよう!	パンフレット・腰痛体操
	腰痛に要注意 ~しゃきつと背中ではいきいき歩こう! ~	ポスター・腰痛体操
膝痛予防	膝を労わろう!	パンフレット・ストレッチ
肩こり対策	なぜなるの?? 困った肩こり カチカチ肩こりほくほくしましょう☆	パンフレット・ストレッチ
ストレッチ	運動不足解消で健康になろう! ~みんな得意いきストレッチ体操~	パンフレット・ストレッチ
ロコモティブシンドローム	バランス感覚&脚を鍛える! ロコトレ!	パンフレット・ストレッチ
冷え性	体ほかほかさようなら冷え性	パンフレット・ポスター
認知症	私って認知症かも...?	パンフレット・指の運動
歯科衛生	正しい歯みがきを知り、自分のものになろう	リーフレット・歯の模型
	"8020"をめざそう!!	リーフレット・歯の模型

文献

- 厚生労働省：二一世紀における第二次国民健康づくり運動（健康日本21（第二次）http://www1.mhlw.go.jp/topics/kenko21_11/top.html（2014.2.5）アクセス
- 文部科学省：大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告2011
- 栗本一美, 掛屋純子：「健康教室」に関する学内演習と地域看護学実習での学生の学びと学習の成果, 新見公立短期大学紀要, 29, 51-58, 2008
- 野原真理, 照沼美代子, 村山正子：大学における地域看護学の授業展開—健康教育の演習を中心に—, 医療保健学研究, 1, 89-101, 2010
- 逸見英枝：成人看護学におけるヘルスプロモーション教育での学生の学び—健康教室パンフレット作成を取り入れて—, 新見公立短期大学紀要, 27, 21-32, 2006

What the Nursing Students Obtained Through the In-Home Nursing Health Education Training

Junko MARUYAMA, Kazumi KURIMOTO

Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

Our in-home nursing education program offers nursing students a variety of health education training. The purpose of the study was to clarify what the nursing students obtained through our health education training in community-based settings. Qualitative data were collected via the student reports submitted. As a result of qualitative data analysis, 207 codes were extracted from the data and grouped into 6 categories; “health and life perspective of the participants”, “Aim of health education”, “Planning of health education”, “Management of health education”, “Evaluation of health education” and “Self-awareness and achievement of students”. This result suggests that the nursing students understand the participants, and their community, and their background through process of planning, preparing and carrying out the health education. In addition, the nursing students reconfirm the importance of changing health behaviors and respecting individuals, and feel satisfied with their activities, leading to increase their awareness and responsibility.